



2025 年 10 月 28 日

国際審判員 松田 雅彦

Asian Rowing Championships (Hai Phong, Vietnam, 2025) (16th, Oct, – 19th, Oct, 2025)

1. はじめに

2025 年 10 月 16 日（木）～10 月 19 日（日）に Hai Phong, Vietnam で開催されました Asian Rowing Championships 2025 に国際審判員 (IT0) として参加致しましたので、審判業務及び大会概要につきましてご報告申し上げます。

尚、今大会は当初本年 12 月に India で開催予定であったが、同国内事情により cancel となり Vietnam 開催となった。

2. 渡航に関して(写真 1)

大会会場である Hai Phong は Vietnam の首都 Ha Noi から約 120km に位置する。成田空港から Noi Bai 国際空港に到着後、現地 OC が手配した車（約 2 時間）で問題無く現地に到着した。ベトナムは 2016 年に Beach Rowing, 2024 年に South East Rowing を開催しており、大会運営のノウハウを蓄積しているように感じられた。



(写真 1 Noi Bai Airport)

3. 滞在先 (写真 2, 3)

Hotel The Vinpearl Hai Phong Rivera

大会関係者の宿泊先であり Hai Phong 中心部に位置し大会会場まで車で約 20 分の距離であった。朝食夕食はホテル、昼食は会場で摂った。



(写真2) The Vinpearl Hai Phong Rivera (写真3 ホテル内の本大会の掲示板)



4. 大会概要

(1) 大会日程 (写真4)

今大会は以下の通り行われた。カッコ内は小生の担当部署。

10月15日（水）Team Manager Meeting

First Jury Meeting

Course inspection, Umpire Seminar

10月16日（木）Heats (Athlete Weighing)

Umpire Seminar

10月17日（金）Semi-Finals Opening Ceremony(Out-Pontoon)

10月18日（土）Finals (Starter/Assistant Starter)

ARF Congress

Nation's dinner

10月19日（日）Finals (Umpire 2)

※ベトナムは4月～10月まで雨季なので今大会中も雨天に見舞われた。大会前の公式練習中（10/14）に雷雨となつたが、コースで練習しているクルーがいた。練習可否は各国の判断とのことかと思料するが、安全面から大会側が悪天候時の練習可否を判断すべきであろう。

余談ではあるが雨天時の道路は至る所で上記の通り排水が追いつかない状況であった。

降雨量に対して貯水設備が十分に整備されていないからかと思料するが大規模に整備するには費用の面からも時間を要するであろう。



(写真4 雨季の冠水した道路)

(2) Team Manager Meeting は Technical Director Edy が進行した。各 Events の Draw が行われ、公式練習時及びレース時の Traffic Rule が説明された。(写真5～7)



(写真5 Traffic Rule Training)



(写真6 Traffic Rule Race)



(写真7 Team Manager Meeting)

公式練習については種目毎(小艇、大艇)でレーンを分けるもの。レース時は Warming Up Area は本部側で反時計回り、Cool Down Area は対岸で時計回りとした。Area により回り方が異なることはクルーの混乱を招く可能性があったが特にトラブルは発生しなかった。又、両 Area にいるクルーはレース通過時に停止するように指示されたが両 Area とコースから距離があるのでこのルールは厳格にはしなかった。

(3)Events

今大会は以下の 2 つの Groups に分けて行われた。同じ Group の Event にダブルエントリーする場合はクルーのリスクで行い、そのためにレーススケジュールは変更しないと明言された。

又、今大会中国は不参加であった。理由はこの時期に中国内の国民大会（日本で言う国民

スポーツ大会) がありこれはオリンピックと同じ4年に1度の開催とのことだが、中国スポーツ界では非常に重要な位置づけとされているとのこと。

ア. Group A : LW2-, W2X, W2-, M4X, LM1X, LW2X, LM2X, LW4X, W4-, M8+

イ. Group B : M1X, W1X, M2-, W4X, LW1X, LM2-, M2X, LM4X, LN4X, LM4-, W8+

(4) コース (写真8)

Gia Dam River

川に作られたコースであるが分流で埋め立てにより堰き止められているので流れは無かった。



(写真8 大会会場)

5. 審判業務について (写真9)



(写真9 Jury Meeting)

(1) Start (写真10~12)

Start 及び Finish system は IMAS を中国企業(FAL-CON)が使用した。当初 Finish System は準備出来ないとのことであったため発艇号令は無線で飛ばすとした。然し乍、Finish System は準備されており発艇号令も Finish System に連動した。ただ、Back up として当初の通り発艇号令は無線で飛ばすこととした。Start には NT0 が 2名割り振られており、NT0(VIE)がトップウォッチによる Back Up を行った。大会3日目、小生は Yin Min(MYA)と共に Starter であったが、発艇前にシステムダウンがあったがレースに影響はほぼ与えなかった。ただ、最終日も System Down したので一部レースで信号ではなく発艇旗によるスタートが行われた。小さなことであるが、スタートエリアで選手が挙手しているのを BH が気付きすぐに Starter に伝えた。迅速な対応は迅速な解決に繋がるので指導が行き届いていることを感じさせる。又、M8+で KAZ に Dead Weight があったが CC での確認をしているが、Cox の種目が減少しており、且つ Dead Weight 対象クルーが少ない場合、What's up に入力するだけでなく無線で関係部署にその旨伝えるべきであろう。



(写真 10 Start)



(写真 11 Start から見たコース)



(写真 12 Start System)

(2) Judge at the Start (写真 13, 14)

Judge at the Start は水上に位置するが固定されていないので波の影響を受けた。固定することは出来ないのでやむを得ない状況であった。System では見にくいでリアルに見る方がより確実である。初日は Boat Holder が業務を理解しておらず、Starter の「Attention」の号令と同時に手を放したので多くのクルーが False Start となった。(正確には正常なスタートではなかつたが) すぐに Boat Holder に「Go」で手を放すように指導したのでその後は問題無かつた。



(写真 13 Judge at the Start)



(写真 14 Judge at the Start)

(3) Umpire (写真 15, 16)

Umpire は Zonal 方式が取られ、U1 は 100~800m、U2 は 800~1500m、U3 は 1500~2000m とした。Umpire Boat は 3 艇手配予定であったが、1 艇が故障のため初日は和船で代用した。(和船は U2 が使用したが、大会 3 日目には 3 艇のカタマランが揃った) 最終日の小生の担当部署は Umpire 2 であった。最終日、シングルスカルが Finish 後に沈したが、救命艇・Umpire Boat が迅速に対応し問題無く救助活動が行われた。

Driver は NT0 が担当し、英語でのコミュニケーションは問題無くレースでの付ける位置を的確に理解しており、トラブル時（沈等）にも迅速に対応した。

最終日 W4X IRI (レース No. 58) の選手が体調不良のため、DNS となつた。ただ、情報が錯綜し一時レース No. 58 をレース No. 59 の後に行うことが伝えられ、レース No. 58 に出漕す

るクルーを一旦桟橋に戻すことも検討されたが、結果として桟橋に戻さずにレース No. 59 の後 IRI を DNS として行われた。



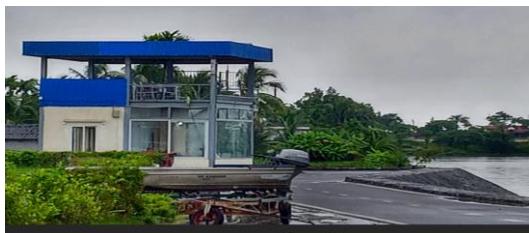
(写真 15 Umpire Boat カタマラン)



(写真 16 Umpire Boat 和船)

(4) Judge at the Finish (写真 17~21)

判定は 2 階建であり、Finish System による画面上の確認は 1 階でしか行えず、目視による確認は 2 階で行うため、Res. Finish Judge と Finish Judge の連携が取りにくい状況となった。この状況は System 上改善されなかった。



(写真 17 Finish House)



(写真 18 Judge at the Finish)



(写真 19 Finish Camera)



(写真 20 Finish System)



(写真 21 Finish Camera)

(5) Athlete Weighing (写真 22~24)

Athlete Weighing は小生の初日の担当部署であったが、I-Pad ではなく 1 枚の定型用紙にクルー毎に大会期間中の体重を記載していくものであった。ただ、選手名は記載されておらず初日は選手名の転記に時間を要した。今大会は M8+ があったが計量所には Dead Weight が準備されておらず要求したところ、写真のようなウエイトプレートが届けられた。理想は袋に砂 or 小石を入れがムテームで補強しレース No. クル一一名、重量を記載し署名することであるが、勿論ガムテープやペンも準備されなかった。結果として初日は M8+ に出漕するクルー

の Cox は全員規定重量である 55kg 以上であったため、Dead Weight の必要は無かったが作成する必要の可能性もあったことから最低限準備はされるべきであろう。大会 3 日目の M8+ KAZ の Cox は 55kg 未満であったため、1kg のウエートプレートを携行した。



(写真 22 Athlete Weighing)



(写真 23 計量器)



(写真 24 Dead Weight)

(6) Pontoon (写真 25~27)

Out-Pontoon は ITO2 名、NT04 名が担当した。今大会はメディア関連が少ないとこと、レンタルボートがスポンサーになっていることから Advertising については厳しく指摘することはしなかった。この辺りは難しいが Advertising Check が経験出来る大会は限られており ITO がその経験を出来るメリットはあるかと思料。クルーの ID Check に i-pad が準備されたが、日差しが強く i-pad の画面が見にくいため、クルーの顔写真及び氏名は ID-Card で確認を行った。大会 2 日目レース No. 21 M2- で VIE に艇故障があり（オールの破損）、レース No. 22 を先に行い、VIE のオール輸送後にレース No. 21 を行った。又、レース No. 20 M2X KUW は無届の棄権で DNS となった。



(写真 25 Out Pontoon)



(写真 26 In pontoon)



(写真 27 艇置き場)

(8) Boat Weighing(写真 28, 29)

Boat Weighing は屋外にテントを張りその中で行った。計量器に不具合があったが、大会 2 日目からは問題無く計量を行った。今大会 BUW は無かった。



(写真 28 Boat Weighing)



(写真 29 Boat Weighing)

6. 参加 Jury Member (写真 30)

Technical Director(TD) : Edy Suyono (INA)

ARF Doctor : Mikio Hiura (JPN)

Jury Members (ITO 12ヶ国 合計 17名)

- ① Takao Senda (POJ/JPN 1230)
- ② Tran Thi Hong Bich (VIE 1580)
- ③ Mon Mon Khaing (MYA 1655)
- ④ Yadav Smita (IND 1394)
- ⑤ Masahiko Matsuda (JPN 1614)
- ⑥ Kwon Jae Hyung (KOR 1638)
- ⑦ Korathi Narendra (IND 971)
- ⑧ Cheung Wai Lun (HKG 1731)
- ⑨ Ng Wing Ning (HKG 1441)
- ⑩ Htay YinMin (MYA 1706)
- ⑪ KHAN Imtiaz Ahmad (PAK 1195)
- ⑫ Khosravian Maryam (IRI 1668)
- ⑬ Welikala Lasantha (SRI 1700)
- ⑭ Ikram Arif (SPG 1733)
- ⑮ Phongphanphainee Chairat (THA 1775)

⑯ Gupta Sandeep (IND 1536)



(写真 30 ITO/NTO)

7. Umpire Seminar(写真 31)

今大会期間中の空き時間(10/15 午後・16 午後)に Umpire Seminar が開催された。纏まつた時間が確保出来なかつたため、各日の隙間時間を利用して開催された。内容については本年変更された性別の参加、種目変更、Progression System、選手変更等多くの変更が行われたため、変更内容が中心であった。

10/15(水)2025 Rule 改正・変更点等 / World Rowing の歴史と現状等

10/16(木)Beach Sprint Sec. / Umpiring Sec.



(写真 31 Umpire Seminar)

8. 表彰式 (写真 32, 33)

今大会は日本クルーM2X（宮口選手、櫻間選手）が優勝し表彰台に上がった。表彰式は通常はレース毎に行うのでクルーはあまり待つことはないが、今大会は全てのレース終了後に行われたのでテント内ではあるものの暑い中長時間待つことになった。やむを得ない事情はあるかと思うが、Athlete First で行うべきであろう。



(写真 32 表彰式)



(写真 33 表彰式)

9. ARF 総会（写真 34～36）

毎年 Asian Rowing Championships 期間中に ARF 総会が開催されており、今大会は 10/18 (土) 15 時 00 分～18 時 30 分に開催された。今回は World Rowing Rolland 会長も参加され祝辞を述べられた。総会では各役員からの報告及び事務局長からの決算報告等が行われた。

来年岐阜（長良川）で開催されるアジア競技会について組織委員会から小川氏、佐橋氏及び小林氏が登壇されプレゼンテーションを行った。

又、来年のアジアで開催される国際大会についてアジアカップは韓国、アジア U19 はインドが立候補した。（正式決定は後日）



(写真 34 ARF 総会)

ARF 総会後に Nation's Dinner が開催された。Hai Phong 市役職者、ローランド会長、ARF 役員、大会 OC、各国監督、コーチ、クルー及び ITO/NTO 等多数が集まり大いに懇親を深めた。



(写真 35 Nation's Dinner)



(写真 36 Nation's Dinner)

10. 終わりに

ベトナムで開催される大会には初参加であったが、現地では大会運営にハード・ソフトの両面で協会及び現地スタッフが力を入れていることが実感できた。特に今大会は当初 12 月にインドで開催予定であったが諸事情によりインドがキャンセルし、代替地としてベトナ

ムが引き受けた。約半年間の準備期間でこの大会を成功させることには運営面でも資金面でも驚愕するが現地大会役員及び行政機関の連携による賜物であろう。アジア各国から参加した審判員とも共有を深めることができ、特に多くのルール改正があり理解をすることも大変であるが皆熱心に理解を深めようと努めていることにも共感できた。国際大会への参加は限られているので現在行われているアジア圏でのオンラインでの審判員による勉強会を今後も大いに活用でればと思料する。今大会ではベトナムのみでなく海外から多くの NTO が参加した。NTO の心構えとして ITO の指示に従うことは当然であるが積極的に業務のサポートを行うことも重要であると感じた。

最後になりましたが、本大会に派遣させて頂きました事に就きまして、ご尽力頂きました関係各位に心より感謝を申し上げます。

Cảm ơn Hải Phong!!

以上